

21世紀日本の ワイルドライフ・マネジメント

－ 課題とSDG's的解決法を考える －

羽澄俊裕

一般社団法人リアル・コンサベーション 理事

1

■野生動物の引き起こす問題 （あくまで人間という種にとっての害の概念において）

●野生動物と人間の分布域の重複がもたらす問題

農林水産被害
人身事故／交通事故（車両、鉄道）
生活環境害（住居への侵入、庭園の食害、糞害、etc.）
保健衛生害（人獣共通感染症）／ etc.

●高密度になったシカの食圧による森林への影響

下層植物の減少／土壌流出／地表面の乾燥／保水力の衰退／土砂災害の発生／
高木の倒壊／希少植物の消滅／
生物多様性の劣化／生態系の劣化（自然資本／生態系サービス）／ etc.

●外来動物の問題

農林水産被害／生活環境害／保健衛生害／
生態系の攪乱（ニッチを奪う、捕食、生態系の多様性への害）／
遺伝子攪乱（交雑による遺伝子の多様性への害）／ etc.

2

大型野生動物の保護（保全）を考える上で着目すべき2つのポイント

■生息環境の健全性は担保されているか

水、食物、カバー（姿を隠す）が十分にあるか

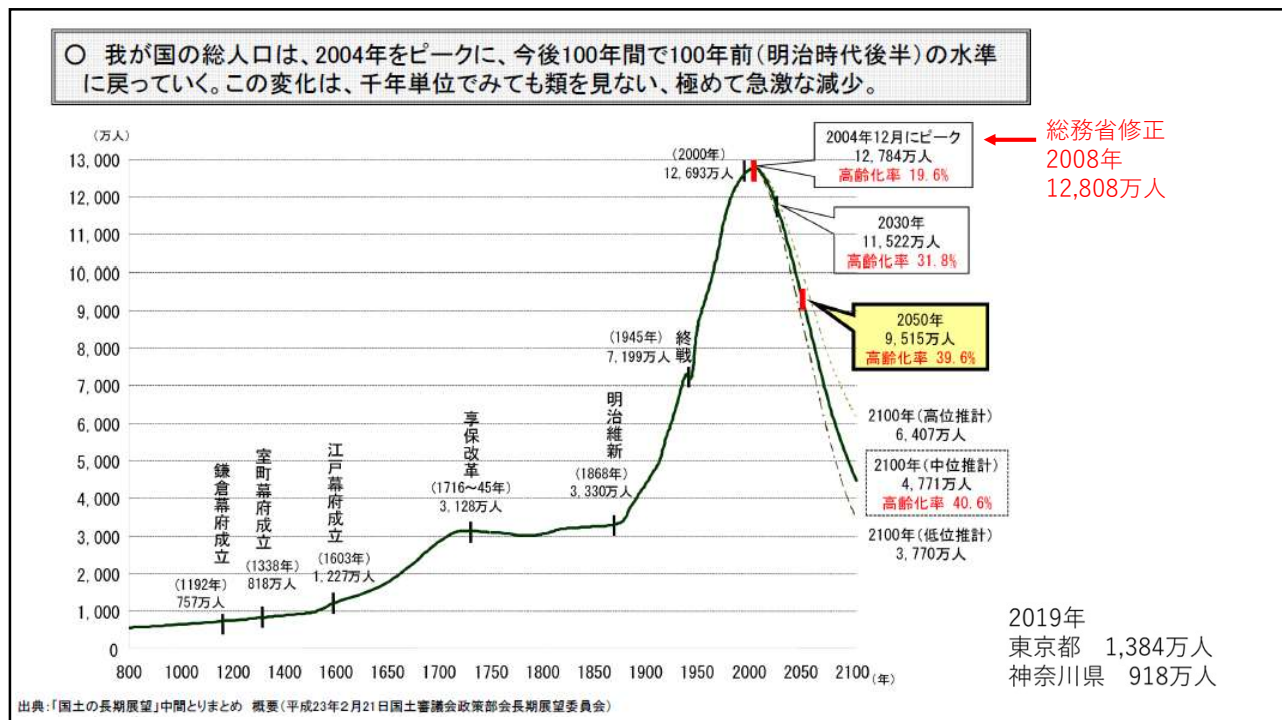
分布域の面積は十分であるか

分布域の連続性は確保されているか

■捕獲の圧力は適切か（狩猟、有害捕獲、予察捕獲、個体数調整捕獲、etc.）

捕獲数と増殖（繁殖）との間でバランスがとれているか

3



4

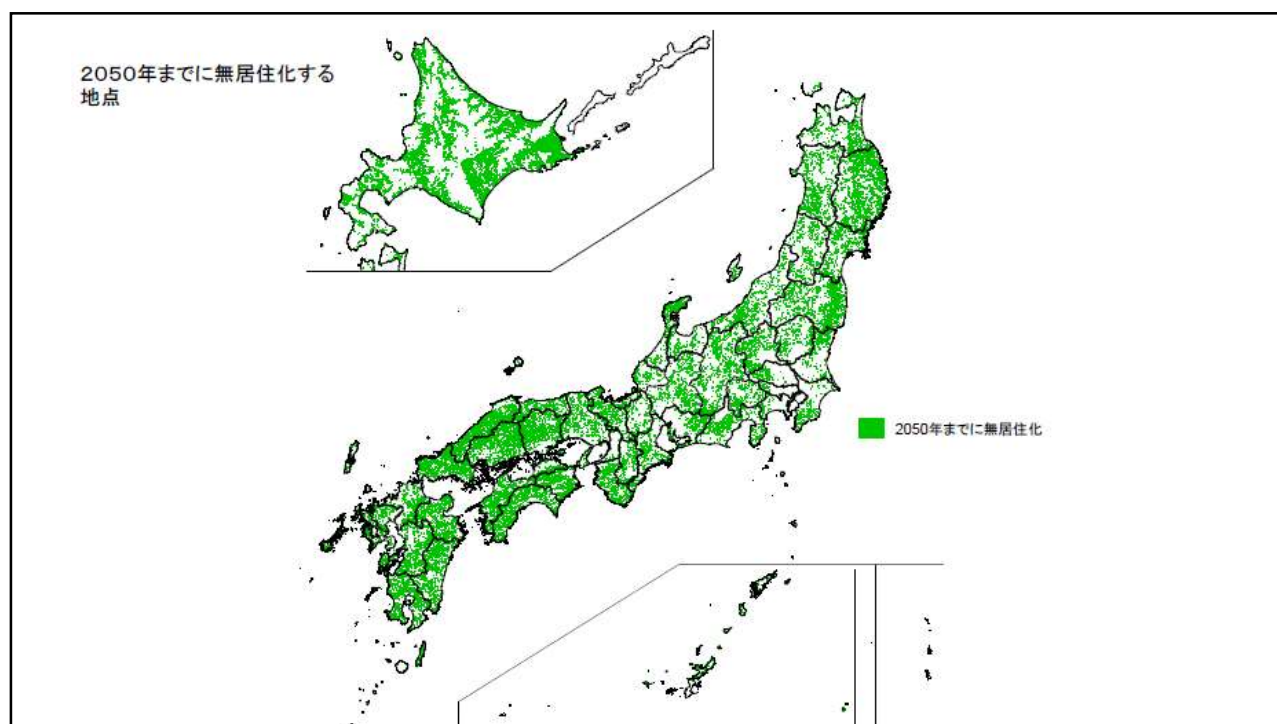
現代の問題の根源

■ 自然と向き合う人の圧力が減っていく

空間的な人の撤退

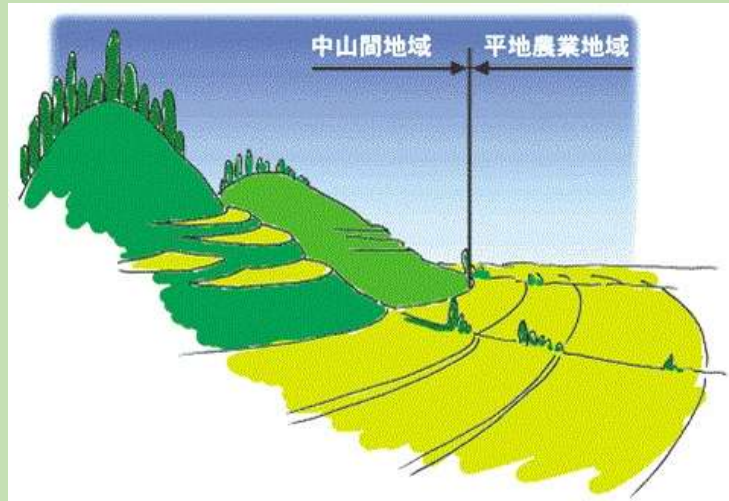
狩猟者人口、農業者人口、林業者人口の減少・消滅

5

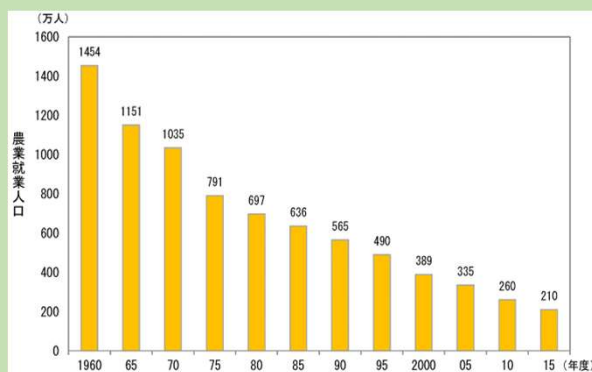


6

現代の野生動物問題の増加は、1960年代（S40年代）に始まった中山間地域の**過疎問題**が発端。



7



農業就業者数の推移

約3%

2018年 全就労人口 6,664万人



0.06%

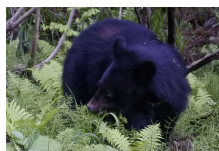
8



9

クマ類の分布

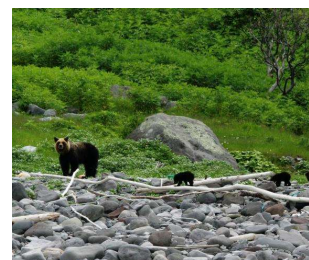
水色 2004年
赤色 2012年



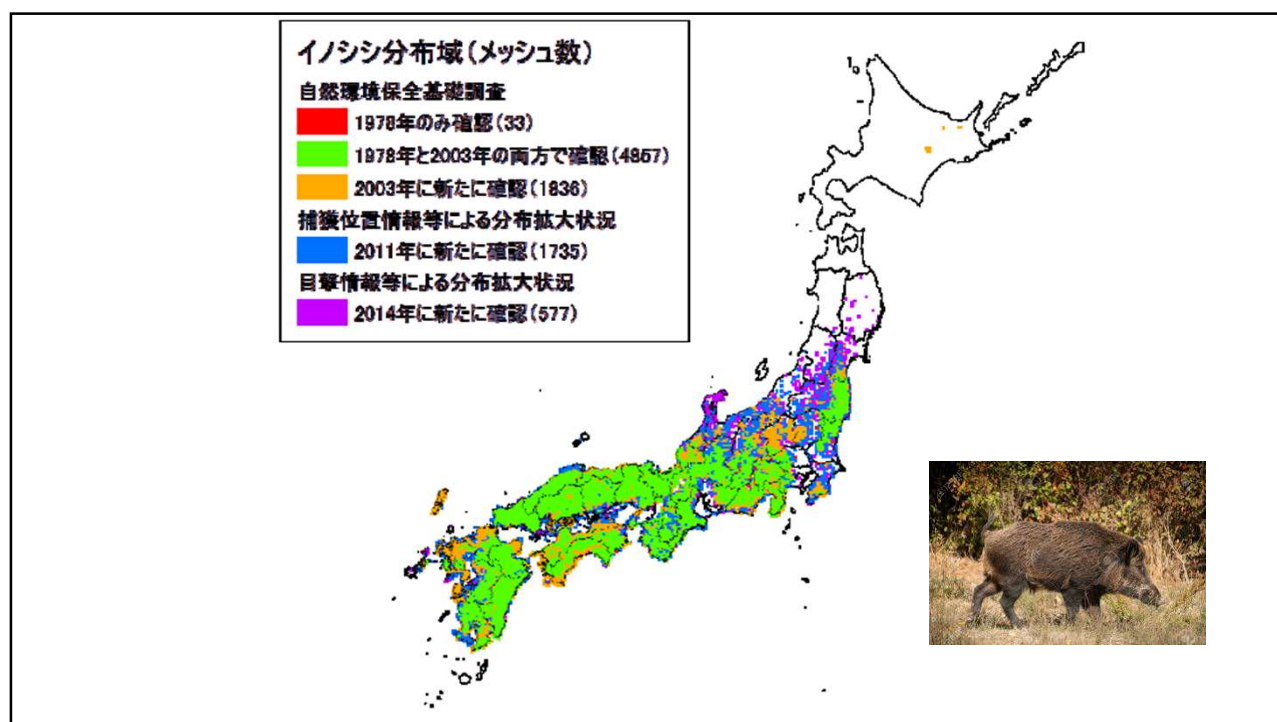
本州以南の
ツキノワグマ



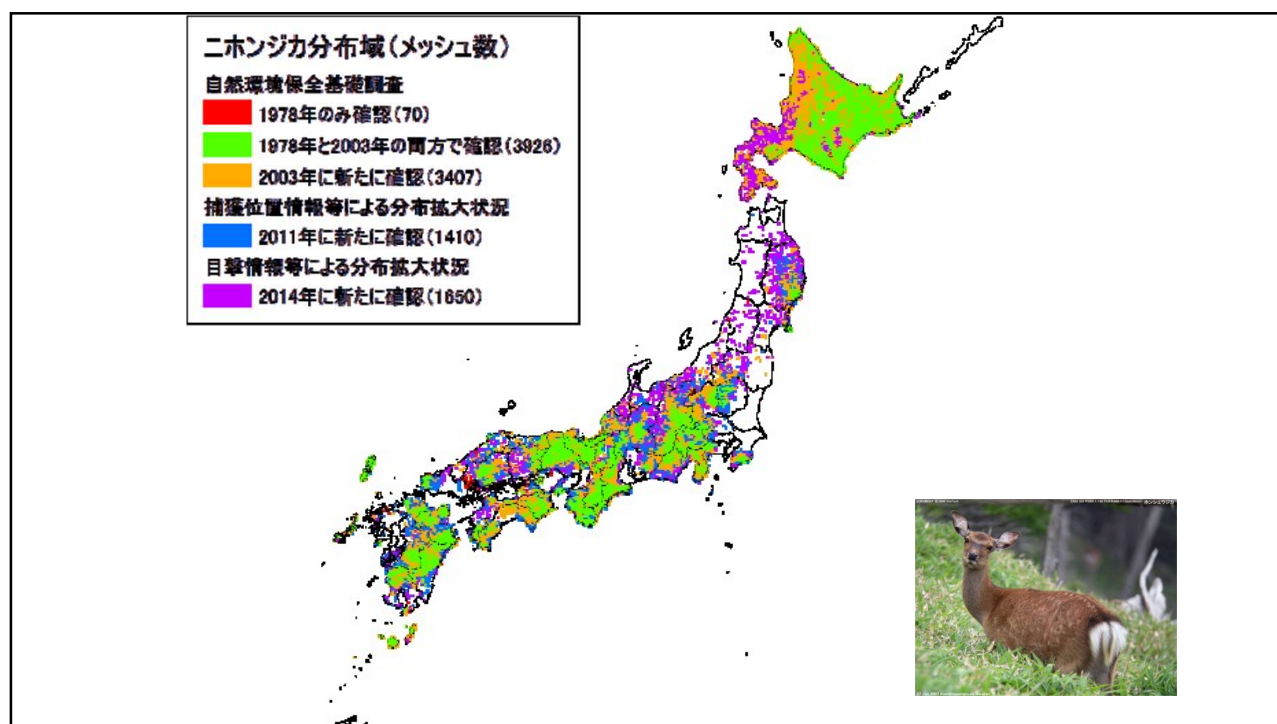
北海道の
ヒグマ



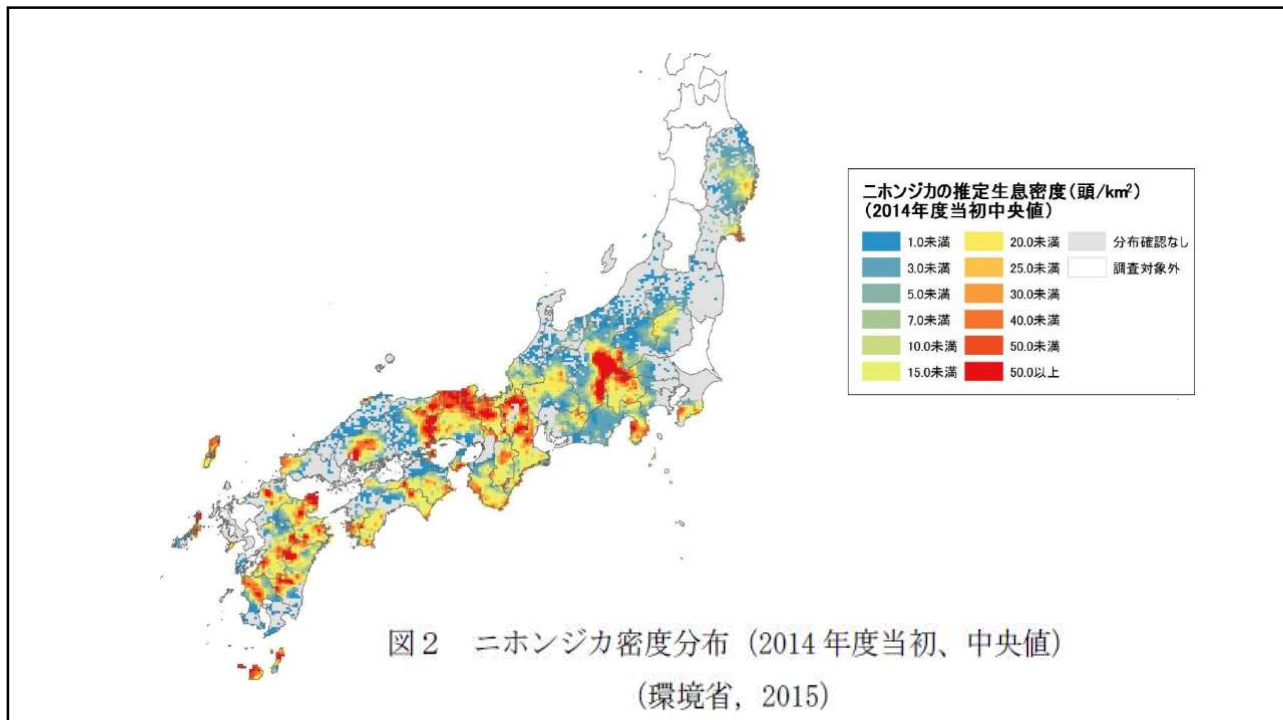
10



11



12



13

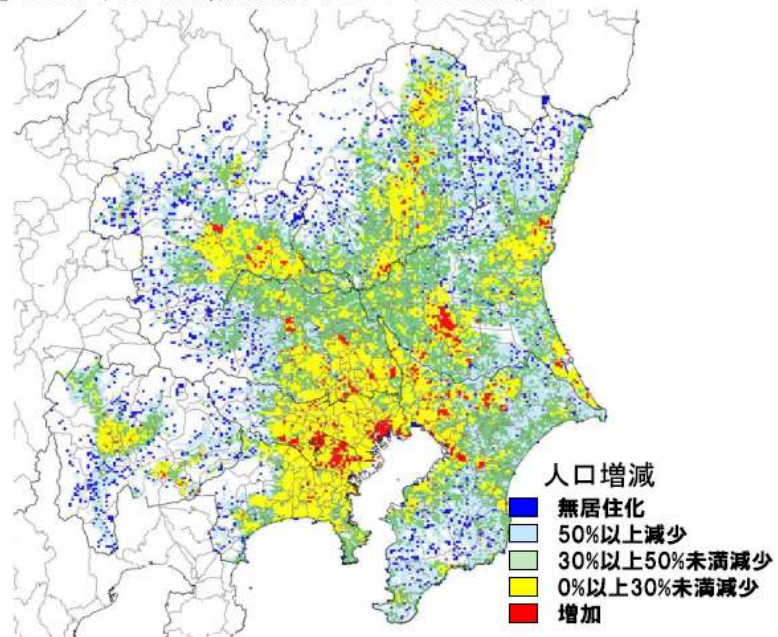


14



15

【首都圏】2050年の人口増減状況（2010年との比較）



16

21世紀以降の鳥獣行政に関する法計画制度の推移（概要）

- 1999年 鳥獣法の「**特定鳥獣保護管理計画制度**」設置 **科学性の担保**
- 2007年 農林水産省所管「**鳥獣被害防止特措法**」設置、改定を重ねている
鳥獣被害防止計画制度、実施隊制度、等
- 2013年 12月 環境省、農林水産省、「**抜本的な鳥獣捕獲強化対策**」の開始
10年で数を半減する（シカ、イノシシ、カワウ、サル被害群）
- 2015年 鳥獣法 「**指定管理鳥獣捕獲等事業制度**」、「**認定鳥獣捕獲等事業者制度**」
- 2016年 森林法の**森林計画制度**の中に、鳥獣害防止の事項が加わった。

捕獲の強化

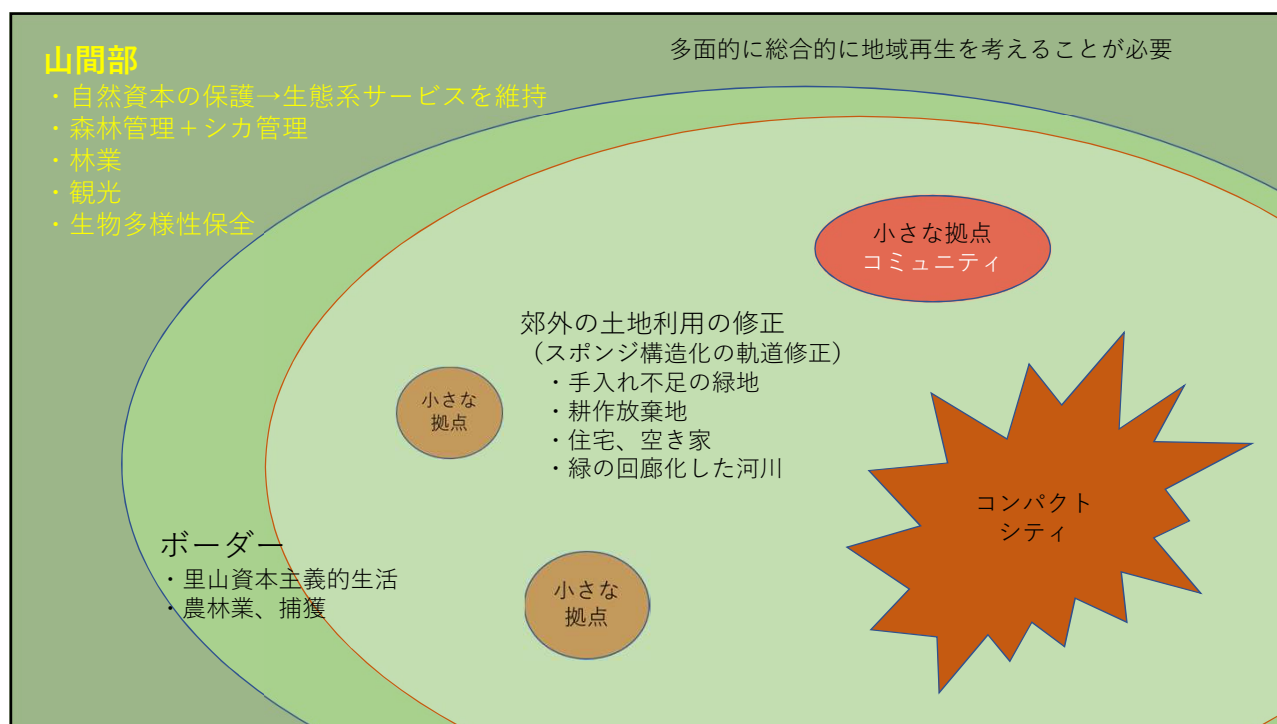
17

「棲み分ける」
どのような体制を生み出すか



鳥根県中山間地域センター

18



19

SDG's 的な解決方法

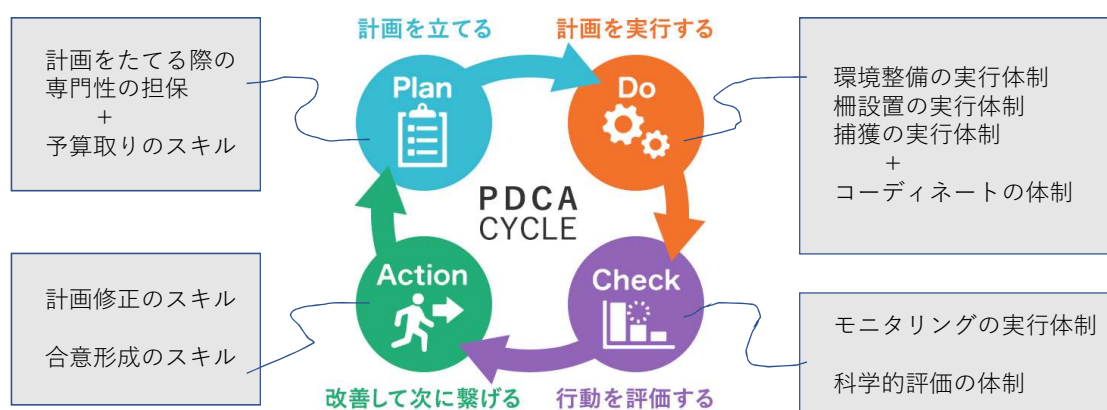
持続可能な社会（コミュニティ）
を生み出しながら・・・

リスク・マネジメントとして
害性のある野生動物と棲み分ける

20

課題 (野生動物のマネジメントの観点から)

- ・ PDCAの循環システムが形成されていない、機能していない。
- ・ それぞれの専門性ある人の「育成と定着」のシステムが形成されていない。



21

生態系を基軸とした社会の実現

その実行体制を本気で模索する必要がある。

人口減少問題を抱える地域再生visionにおいて生態系を基軸とする提案

SDG's

持続可能な社会論

循環型社会

エネルギーの転換
廃棄物の再利用

課題は

- ・ 分野横断の連携
- ・ 市町村、都道府県、国機関、の連携 (すでに環境基本計画に書かれている)

エコシステム・マネジメント

生態系で考える地域再生
SDG'sのテーマにしたらい

2030年ゴールに向けて
エコシステム・マネジャー
を各地に配置する とか・・・

ワイルドライフ・マネジメントは
1つのパート

エコシステム・マネジメントの
実行体制のための人材育成の核を作る

文部科学行政改革

22